

こんにちは 松坂みち子 です

日本共産党市議会議員 松坂みち子の活動報告
ご意見など、ぜひお寄せ下さい。

< No.284 2016.8.10 連絡先 402-1622 >



原水爆禁止2016年世界大会 核兵器のない平和で公正な世界を



被爆7団体のうち4団体の方が登壇し訴え

8月4、5、6日と、広島へ行ってきました。開会総会では、被爆者の平均年齢が80歳を超える中で、7つの被爆者団体が共同してとりくむ核廃絶を求める署名に大いに取り組もうと呼びかけがありました。ベトナムではすでに取り組まれており、代表団は今回8万筆を持って大会に参加しています。その意欲にたいへん刺激を受けました。

私が参加した分科会「映像の広場」では平和行進の記録映像を見ました。初めての平和行進を記録した映像。広島

から東京へ、たった一人で歩き始めたが途中だんだん増えていき、東京につくときには数千人単位の人数の行進になっていた、延べでは100万人が歩いたとか。白黒の映像の中に、当時の人々の核廃絶を求める強い思いがこもっていました。もう一つは、行進をしながら沿道の方々にカンパを訴える活動の記録でした。核兵器をなくすために、話をして理解者・協力者を増やしていく、核兵器廃絶だけでなくすべての運動の基本となるものでした。

閉会総会では、国連軍縮問題担当上級代表らの発言のあと、被爆2世の佐々木祐滋さん、被爆3世のMetis (メティス) さんのコンサートがありました。佐々木貞子さんのおいの祐滋さんは思いを伝える「いのり」という曲を歌いました。被ばく体験の継承が課題となる中で、2世、3世の方が積極的にかかわっていることにカづけられました。

世界では、核兵器廃絶の条約を作るための作業部会の活動が始まったばかりです。いまでも地球上に1万5千発ある核兵器。

一日も早くなくすために、引き続き世界中から声を上げていく、その一人であり続けようと思えます。



平和行進各コースから登壇 通し行進者から発言

みち子のひとりごと 広島焼き

先週、「市立高校」と書きましたが、正式には「市立和歌山高等学校」です。元市和商といえはだれもがご存知でしょう。話すときには「市高」と言っていたのでつい…。失礼しました

に間違いのないと実感です。私も、粉もんが好きな関西人の1人

があるのだから、まあ、不思議はないのでしようが、どちらにしても、だ手が出ません。焼うどん

また、中に入れるそばをうどんに変えることもできませんでした。食べた人は「おいしいよ」と言いますが、満足です。



広島では、一日目の夜はお決まりの広島焼きを食べました。私たちが入ったお店ではいろいろな具材の「全部入り」というメニューがあり、それをみんなで頼みました。でも、メニューの写真には緑のものが山のように乗っています。聞くと、「ネギ」。ということでもネギの苦手な私は「全部入りねぎ抜き」を頼みました。「全部入りとちがうやんか」と自分で突っ込みながらも、値段は同じで、損したような気分。でも、おいしくいただけただけなので満足です。

「あたりらしい憲法のはなし」③

これまでであった憲法は、明治二十二年にできたもので、これは明治天皇がおつくりになつて、国民にあたえられたものです。しかし、こんどのあたりらしい憲法は、日本国民がじぶんをつくつたもので、日本国民ぜんたいの意見で、自由につくられたものであります。この国民ぜんたいの意見を知るために、昭和二十一年四月十日に総選挙が行われ、あたりらしい国民の代表がえらばれて、その人々がこの憲法をつくつたのです。それで、あたりらしい憲法は、国民ぜんたいでつくつたということになるのです。みなさんも日本国民のひとりです。そうすれば、この憲法は、みなさんのつくつたものです。みなさんはじぶんをつくつたものを、大事になさるでしよう。こんどの憲

法は、みなさんをふくめた国民ぜんたいのつくつたものであり、国でいちばん大事な規則であるとするならば、みなさんは、国民のひとりとして、しっかりとこの憲法を守ってゆかねばなりません。そのためには、まずこの憲法に、どういうことが書いてあるかを、はつきりと知らなければなりません。

みなさんが、何かゲームのために規則のようなものをきめるときに、みんないっしょに書いてしまつては、わかりにくいでしょう。国の規則もそれと同じで、一つひとつ事柄にしたがつけて書き、それに番号をつけて、第何条、第何条というように順々に記します。こんどの憲法は、第一条から第百三条まであります。そうしてそのほかに、前書が、いちばんはじめにつけてあります。これを「前文」といいます。

被爆者 松本秀子さんのお話 (抜粋)

ヒロシマデー集会 (閉会集会)

私の家は爆心地に近い材木町にありました。8月6日は、よく晴れた月曜日でした。女学校の校舎で友達とおしゃべりをしていて、その時です。突然、目の前がオレンジ色の光に包まれ、机の下にもぐり込みました。5、6秒後、外に出ようと立ち上がったとき、爆風と同時に、粉々になったガラスを右の顔や肩に受け、血を流しながら外に出ました。

家に帰る途中、御幸橋の上は、髪の毛は逆立ち、服はもちろん、体、皮膚まで焼きさかれ、垂れ下がり、変わり果てた姿の人であふれた地獄のような光景でした。自宅があった材木町は焼け野原で、ひとりぼつんと取り残された、言いようのない悲しさに襲われ、大声で泣きました。

自宅に入り、玄関と台所で見つけた二つの白骨。お母ちゃん、お姉ちゃんだろうか。家の前には、真っ黒な墨のような物体が横たわっていました。弟か妹かと思いましたが、私にはどうすることもできませんでした。父親を探すと救護所にいることがわかりました。歩いている途中、妹が来ていた着物がありました。それは私とおそろいのものでした。熱くて川に入るときに脱いだのでしょうか。

その後、疎開していた弟、妹といっしょに暮らしました。父親は、原爆症で体中がはれ、髪や歯が抜け、あごの骨まで溶け落ちました。胃がんを併発して、58才で亡くなるまで私たちのために働いてくれました。

今86才の私は、うたごえに支えられて楽しんで生きています。

原爆資料館に展示されている物言わぬ遺品の声を聞きに世界中の人が集うこの場所から、核兵器廃絶、真の平和の実現をみなさんと一緒に唱えていきたいと思ひます。



熱中症にご注意を!!

家の中でも熱中症になります。
のどが渴いたと思わなくても、
意識して水分を取りましょう。

寝る時も枕元にお
水を一杯!

